

# 1. スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト

【令和5年度補正予算額 3,000百万円】

## <対策のポイント>

我が国の食料供給の安定化を図るため、不足する農業労働力の削減・代替等の喫緊の課題に対応した、スマート農業技術の開発・改良と、社会実装に向けた実証を実施します。

## <事業目標>

農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 [令和7年まで]

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 戦略的スマート農業技術の開発・改良

① 農業従事者が減少する中で、安定的な食料供給基盤を維持するために必要な労働力の削減・代替等に資するスマート農業技術の開発・改良やスマート農機に適した栽培体系への転換を推進します。

② 特に難度の高い技術の開発について効率的に進むよう、重要技術に係るフェーズビリティ・スタディを実施し、研究体制やアプローチを検討します。

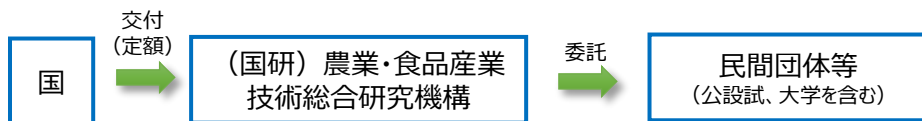
### 2. 戦略的スマート農業技術の実証・実装

① 労働力や海外依存度の高い資材の削減、自給率の低い作物の生産性向上等に必要スマート農業技術の速やかな社会実装を目指す取組の実証を行います。

② 実証データの情報発信及び実証参加者が、その成果を全国各地の生産者・産地に横展開する取組を推進します。

※ ①継続課題分、②「スマート農業技術活用産地支援事業」の新規採択分

## <事業の流れ>



開発

### ○戦略的スマート農業技術の開発・改良

(例) 袋掛けロボット

(例) 運搬車と連動した収穫・搬送作業の自動化

(例) 自動防除機に対応した整枝方法の開発

ニーズが高いものの開発が十分に進んでいない新技術の開発

実用化の障壁を打破するような既存技術の改良

スマート農機に適した栽培体系への転換

実証

### ○戦略的スマート農業技術の実証・実装

ドローンによるセンシング  
「ほ場内のNDVI(生育)のバラつき」をマップ化

「何らかの理由で生育不足」

日照不足!

窒素不足!

リン過剰!

マルチスペクトルカメラ

土壤診断データを加味

従来のセンシングによる肥料不足箇所の特定に加え、当該箇所の土壤診断データを加味することで、肥料成分ごとの必要量を正確に把握したうえでの可変施肥が可能となり、収量の向上と余分な肥料投与の抑制を両立。

実装

実地での勉強会

実証成果等の情報発信

↓JA職員

↓民間企業

↑支援を受ける農業者

実証参加者による横展開

「スマート農業」の社会実装による食料供給の安定化